震災とともに日本の住宅性能向上に貢献してきたカナダ材

COFI カナダ材100周年特集

第1回

カナダ材が日本に初めて入荷して今年で100周年を迎える。関東大震災の復興資材として日本に運ばれたのが最初だった。戦中は軍部により、戦後はしばらくGHQによる統制下で輸入貿易は厳しく制限されたものの、1950年に日本木材輸入協会が設立され、64年には木材輸入が全面自由化された。その後の高度経済成長期には急増する日本の住宅需要を支える主要な住宅部材となり、69年には外国産の輸入木材が国産材の供給量を初めて上回った。

70年代にはツーバイフォー工法というそれまで日本にはなかった新たな住宅工法が導入された。74年にはCOFI（カナダ林産業審議会）が設立され、ツーバイフォー工法に関して日本政府との協議、工法の紹介、普及・促進活動を本格的に始めた。

一方、在来工法向けの資材もブリティッシュ・コロンビア州沿岸地域から積極的に輸入され、さらに日本の資本もカナダでの現地生産に乗り出した。代表的なところでは伊藤忠商事のシーパ、三菱商事のメイヨ・ミツビシ（いづれもバンクーバー島・ナナイモ）がある。

95年の阪神大震災を契機に住宅の耐震性や耐久性に関心が集まると、高い強度を持つカナダ材製材品への需要は急速に広がっていった。北米からの製材品は80年前半では年間300万立方㍍だったが、96年には827万立方㍍にまで達し、日本の木材輸入量の7割を占めた。

2005年の姉歯耐震偽装事件により、建築基準法が改正され、木材の性能への関心が高まり、COFIは各種の耐震、耐火実験を行い、50以上にわたる大臣認証を取得して、日本の建築性能の向上の一端を担ってきた。

11年の東日本大震災後には「カナダ－東北復興プロジェクト」を立ち上げ、図書館等、各種施設を宮城県、岩手県、福島県4カ所へ寄贈して震災復興にも寄与した。

10年代から非住宅分野での木造化の流れが動き始めると、2×4と屋根トラス使用分野を中心に、カナダ材を活用する動きも現れている。最近ではSDGsやESGへの関心が高まるなか、カナダ材は周辺環境に配慮した森林・木材産業であることも評価されている。

カナダ林産業審議会（COFI）は、この節目の年に合わせて、本紙で毎月1回、計6回にわたって日本とカナダ材の歴史を振り返るとともに、その性能や消費者にとってのメリットを改めて伝えていく。

東京木材埠頭に入荷するカナダ材（1970年代中ごろの様子）

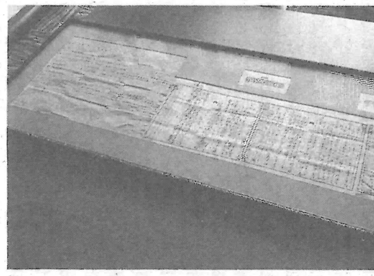
関東大震災の復興資材でカナダ材初入荷

国立駅旧駅舎に使われ、現存

日本に初めてカナダ材が入荷したのは関東大震災の直後だった。1923年9月1日に発生した関東大震災で、深川・木場は焼失し、横浜港も機能停止に陥った。当時、東京の復興を担うことになった帝都復興院は、建築資材として木材が大量に必要になると考え、カナダ連邦政府を通じて注文を出した。

この注文に対応したのが、H・R・マックミラン・エキスポート社だった。同社は、後のマックミラン・ブローデル社となり、現在はウエスタンフォレストプロダクツ（WFP）に吸収されている。しかし、WFPには今も当時帝都復興院とH・R・マックミラン・エキスポート社が1923年11月20日付で交わした契約書が残されている。ここには米松や米ツガといった樹種や品目、品質などが事細かく記されている。ちなみに、この品目のなかに床材として「フローリング」という言葉が入っているが、公的な文書で確認できる「フローリング」という言葉が初めて使われた事例ではないかといわれている。

H・R・マックミラン・エキスポート社は、震災直後で復興を急ぐ日本にとって、木材は早急に必要な資材だと考え、他国向けに既に積んでいた製材品を日本に回している。本来は注文を受けてから製材し、運んだ場合には当時半年から1年かかってしまう。これを少しでも短縮するために、同社はこうした対応を進めた。カナダから日本へ太平洋を渡ったカナダ材は当時、震災の影響で港の多くが復旧していなかったため、製材品を海に投げ込み、日本側で小型船がそれを手繰り寄せる形で受け取ったと見られている。



当時帝都復興院とH・R・マックミラン・エキスポート社が交わした契約書（WFP所蔵）

しかし、復興計画の遅れから当初期待されていたほど木材需要が高まらず、他の国内外産地の木材も大量入荷したことで23年末には木材価格は大幅に下落した。このため、帝都復興院が一部の注文をキャンセルしたためトラブルが発生した記録が旧マックミラン・ブローデル社の社史に記載されている。その後、数年間は毎週2隻の船で定期的に日本向けの輸出が続いていたが、第二次世界大戦により一時中断。戦後、1948年に再開されて、会社が変わりながら現在まで取引関係が続いている。

この日本にきた最初のカナダ材が使われた建物が現存している。東京都国立市にあるJR国立駅の旧駅舎だ。旧駅舎は1926年に完成し、長年特徴的な赤い三角屋根の駅舎が使われていた。2006年の高架化に伴う駅舎新築の際に解体されたが、復元を念頭に置いて部材は保管されていた。18年から駅前での再築工事が始まり、20年に待合室や観光案内所を兼ねた拠点として再スタートを切った。

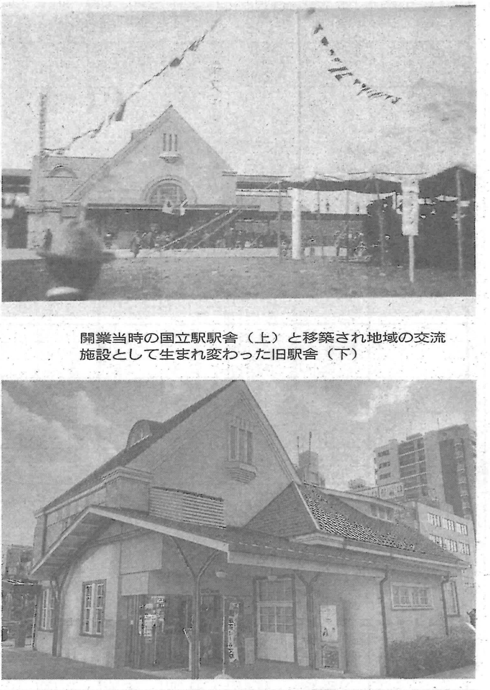
ドイツのティンバーフレーム工法が採用されたこの駅舎は、当時でも国立駅以外では千葉県に1カ所だけ存在したといわれており、非常に珍しい工法だった。当初は地元産の松が使われていると見られていたが、解体後の調査の結果、米松が使われていることが分かった。

なぜ帝都復興のために輸入されたカナダ材が国立で使われたのか。国立の歴史に詳しい佐藤収一氏は「本来、帝都復興に使われるはずだったカナダ材だが、区画整理の遅れから活用は進まず、昭和通りの下地などにも使われていた。

国立の開発を手掛けた西武グループの祖である堤康次郎は、当時内務大臣で帝都復興院総裁だった後藤新平とつながりがあったため、このカナダ材が安く手に入ったのではないか。復興院としても震災後の郊外への移転需要に対応できるという観点から都合がよかったのではないか」と話す。国立市には駅舎以外に震災の影響で国立へ移転してきた一橋大学の仮設校舎でもこのカナダ材が使われていた記録が残されているという。

当初の予定とは異なる場所で活用された日本最初のカナダ材だったが、その建物は今も残されており、木材の一部は館内で展示されている。

関東大震災での帝都復興のためにカナダ材が大量に入荷したことは、カナダ材の資源の豊富さや北米の製材能力や輸送能力の高さを日本の木材業界に知らしめる出来事にもなった。



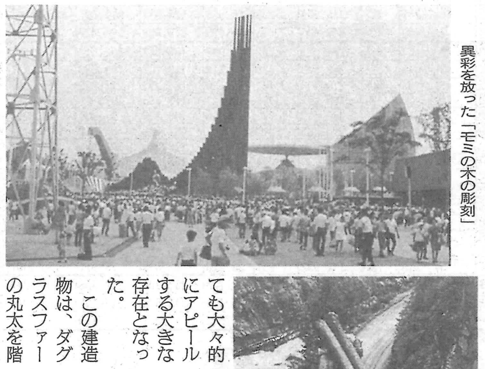
開業当時の国立駅駅舎（上）と移築され地域の交流施設として生まれ変わった旧駅舎（下）

年	カナダ材関連の出来事
1923	関東大震災後の復興資材としてカナダ材初入荷
25	横浜木材、マックミランからカナダ材を直貿で初輸入
26	初入荷したカナダ材が使われた旧国立駅舎完成
35	日本政府、カナダ材への報復関税を決定（7月）、12月に撤回
37	輸出入等臨時措置法により、木材も輸入制限品目に指定
41	木材統制法成立
47	木材統制法廃止（11月）
50	日本木材輸入協会発足
64	日本米材協議会発足
67	伊藤忠商事はカナダ現地法人と合弁でシーパーランバー社を設立
70	大阪万博でBC州館

BC州館、米松丸太300本を使用

カナダ産木材を日本にアピール

1970年大阪万博



異彩を放った「モミの木の彫刻」

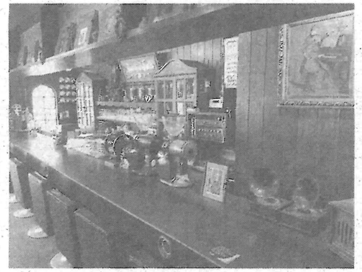
日本万国博覧会（大阪万博）は1970年3月～9月の183日間、「人類の進歩と調和」をテーマに開催された。参加国は日本を含めて77カ国に及び、330㌶の広大な博覧会会場には118の展示施設が建てられた。そのなかで、カナダのブリティッシュ・コロンビア（BC）州館は、ダグラスファーの丸太を並べた大型建造物を披露した。このBC州館は、カナダ産木材の存在を日本に向けても大々的にアピールする大きな存在となった。

この建造物は、ダグラスファーの丸太を階段状に立てて並べた設計で、その急こう配の美しい曲線から「モミの木の彫刻」として親しまれた。また、同建造物には立ち入ることができたため丸太の階段を上り下りして遊ぶ来場者も多く、人気を博した。使用したダグラスファーの丸太は合計300本（約270立方㍍）で、バンクーバー島で伐採したもの。建造物の頂点を形成する丸太6本は樹齢270年、長さ53㍍、径級140㌢の大径長尺材だった。

それほどの大木だったため、山からの搬出は当然苦労を強いられた。早くからカナダ材の輸入を手掛ける津田産業の津田潮社長は、津田良太郎初代社長や津田博2代目社長から聞いた当時の話を「50㍍を超える丸太だから当然1台のトラックでは無理で、2台のトラックへ丸太を渡すようにして載せた。カーブを曲がり切れずに立ち往生したり、エンジンが焼けるなど、相当苦労したようだ」と語る。

材の搬出では曲がり角で立ち往生することも

大阪万博の会期終了後、BC州館は解体され、使用された300本の丸太は津田産業が買い受けた。300本の丸太は契約内容にのっとって製材され、木造建築物の構造材や建材として使われた。その多くは大阪府内の一般住宅の建設に消費された模様だが、一部は大阪市内にある寺院の廊下や喫茶店のカウンターに生まれ変わって現存している。



喫茶店のカウンター材にリユース（現在閉店中）

大阪万博から55年後の2025年、再び大阪で日本国際博覧会（大阪・関西万博）が開催される。津田社長は、大阪府木材連合会会長として、今回の万博で当時以上に木材を積極的に活用したいとの意気込みを示している。

2025年の大阪・関西万博は国内最大の木造建築物となる大屋根（リング）が設けられるなど、木材が多用されている。カナダからの出展の詳細は決まっていないが、1970年大阪万博のように、カナダ産木材の存在を再び日本市場にアピールする機会となることが期待されている。

MOREGREEN TO YOU
信頼の住宅資材・建材を御届して103年
TSUDA
津田産業株式会社
http://www.tsuda.co.jp
本社／大阪（TEL 06-6681-1161）神戸・東京・広島・福岡

Since 1923
YLC
Yokohama Lumber Co., Ltd.

SUSTAINABILITY IS IN OUR DNA
“This is not for us,
nor for our children,
but for our grandchildren.”
— Frederick Weyerhaeuser
ウェアーハウザー・ジャパン株式会社
〒140-0002　東京都品川区東品川2−3−14　東京フロントテラス8階
TEL：03-3214-0320　FAX：03-3214-0333
www.weyerhaeuser.jp
Weyerhaeuser

WFP
Western Forest Products Inc.
DEFINING A HIGHER STANDARD™
ウェスタン フォレスト プロダクツ ジャパン株式会社
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-3-6 宗和ビル7階
電話 03-6667-7039　FAX 03-6667-7050
URL：http://www.westernforest.jp